石川県板金工業組合
〒921-8036 金沢市弥生 2 丁目 1 番 23 号　TEL.076-242-3050

やりがいも夢もある！

働き方改革に取り組む企業紹介

板金職人図鑑

石川県板金工業組合

働き方改革に取り組む会社は
社員が仕事に夢ややりがいを持っています。

2019 年 4 月から働き方改革関連法が施行され、現在、働き方改革は大企業だけでなく、日本国内雇用の約7割を担う中小企業や小規模事業者にとっても重要な経営課題の一つとなっています。「働き方改革」とは、働く方々が個々の事情に応じた多様で柔軟な働き方を自分で選択できるようにするための改革です。仕事にやりがいや誇りを感じ、魅力ある職場とすることは、人手不足の解消にもつながります。今回、組合員の中から働き方改革に積極的に取り組み、人材の育成や確保に力を入れている企業（10 社）を紹介しています。若手社員や女性社員が仕事にやりがいや魅力を感じ、いきいき働く職場は、活気があり、業績の向上にもつながっています。これを機に些細なことでも、できることを考えてみませんか。

CONTENTS

P2 ～ P3　発刊にあたって・目次

P4 ～ P5　働き方改革　組合員アンケート調査結果報告

P6 ～ P7　株式会社福村板金
福村 愛理さん

P8 ～ P9　有限会社シマコー
大藏 蓮さん

P10 ～ P11　有限会社上内板金工業
今井 雄貴さん

P12 ～ P13　株式会社越野錺工所
越野 巧さん

P14 ～ P15　株式会社タケノ
山田 千晶さん

P16 ～ P17　有限会社久野板金工業
大桑 匡人さん

P18 ～ P19　有限会社ブリキンながい
永井 久椰さん

P20 ～ P21　株式会社勝泉建築板金工業
嵐 祐稀さん

P22 ～ P23　有限会社向田鈑金工作所
向田 雄治さん

P24 ～ P25　塩山板金工業所
佃 幸二さん
塩山 駿介さん

P26 ～ P27　石川県板金工業組合からのお知らせ

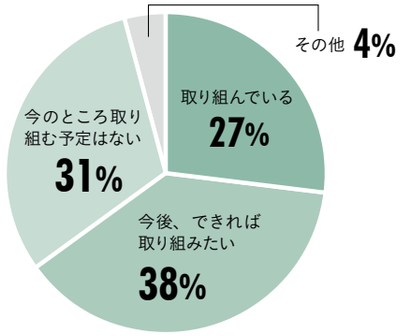
石川県内の組合員企業を対象に
働き方改革の取り組みの実態を調査しました

石川県板金工業組合では、2022年9～10月にかけて組合員企業の皆様の働き方改革の取り組みと人材確保・人材育成の実態を把握するとともに、今後の取り組みの参考とすることを目的にアンケート調査を実施しました。対象組合員企業は178社で、143社から回答を得ました。

1 働き方改革への取り組み

「取り組んでいる（27%）」と「今後、できれば取り組みたい（38%）」を合わせると約7割近い企業になり、多くの組合員が働き方改革への取り組みの重要性を感じている。

石川県板金工業組合キャラクター



2 働き方改革の取り組み内容について（複数回答）

「残業の削減・有給休暇の取得の推進」に取り組んでいる企業が7割となり、「外部委託（外注）の活用（32%）」「従来の業務内容や社内ルールの見直し（23%）」と続く。外作業が多いことから「柔軟な働き方(テレワークの導入など)」は13%にとどまっている。

1	残業の削減･有給休暇の取得の推進	70%
2	外部委託(外注)の活用	32%
3	従来の業務内容や社内ルールの見直し	23%
4	デジタル化で業務の効率化、生産性の向上	18%
5	子育てや介護などと仕事の両立の推進	15%
6	柔軟な働き方(フレックスタイムやテレワークの導入など)の推進	13%
7	その他	1%

3 働き方改革を進める中で最も重視しているもの

働き方改革を進めるうえで、最も重視するものとして、約3分の1の企業が「業務の効率化や生産性の向上」と回答した。「従業員の心身、健康リスクの低減（20%）」や「従業員のやる気の向上（16%）」は約2割近い支持を集めた。一方で､「円滑な人材の採用」や｢社内のルールへの対応」「企業イメージの向上」を挙げる会社は少数にとどまった。

1	業務の効率化や生産性の向上	32%
2	従業員の心身、健康リスクの低減	20%
3	従業員のやる気の向上	16%
4	人材の定着	10%
5	円滑な人材の採用	6%
5	社内のルールへの対応	6%
7	企業イメージの向上	3%
8	その他	2%

4 働き方改革の取り組みでの不安や課題（2つまで回答）

下請けとして仕事を受注するケースが多く、「取引先との納期などの調整（26%）」に不安を感じる企業が一番多かった。ほぼ同数で「人手不足や業務多忙で手が回らない（23%）」と回答する企業も多く、改めてどの企業も人材確保が課題となっていることも浮き彫りとなった。その他には「働き方改革全般の社会や地域の理解(9%)」や「資金不足(7%)」「従業員の意識改革（7%）」などと回答する企業も1割程度いた。

1	取引先との納期などの調整	26%
2	人手不足や業務多忙で手が回らない	23%
3	働き方改革全般の社会や地域の理解	9%
4	資金不足	7%
4	従業員の意識改革	7%
6	ノウハウがない	5%
7	その他	2%

5 人材育成の取り組み（複数回答）

人材育成の取り組みでは、「資格取得や自己啓発に対する支援をしている」が約4割の回答があり、技術力の向上の大切さを理解している企業が多かった。とりわけ現場作業ではチームワークが求められることから「社内で先輩社員から後輩社員への技術指導や教育を進めている（26%）」にも力を入れていることも分かった。一方で､「社外研修に参加させている」は1割程度にとどまった。

1	資格取得や自己啓発に対する支援をしている	43%
2	社内で先輩社員から後輩社員への技術指導や教育を進めている	26%
3	社外研修に参加させている	10%
3	その他	10%
5	社内研修を実施している	2%

6 人材育成の課題（複数回答）

人材育成の課題では、「若手技術者の育成」に課題を感じている企業が約6割にのぼり、この結果からも若手技術者の育成への悩みの深刻さを改めて知ることになった。続いて「多能工の技術者の育成(18%)」や｢現場管理者の育成(17%)」と回答する企業も約2割、「次世代リーダーの育成（13%）」や「若手社員とのコミュニケーションの確保（13%）」と回答する企業が約1割いた。

1	若手技術者の育成	57%
2	多能工の技術者の育成	18%
3	現場管理者の育成	17%
4	次世代リーダーの育成	13%
4	若手社員とのコミュニケーションの確保	13%
6	提案型の企画･営業できる人材の育成	6%
7	その他	5%

株式会社福村板金

福村 愛理さん

Fukumura Airi

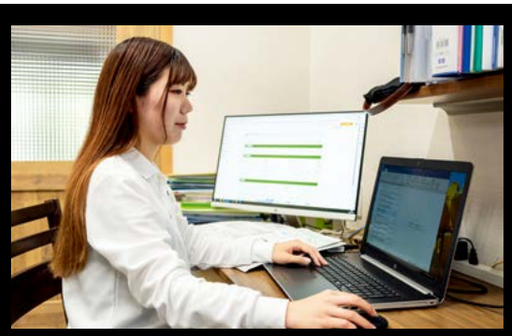
Profile

加賀市生まれ。個人事業で福村板金を立ち上げた父の背中を見て育つ。自慢の父の力になりたいと、金沢星稜大学経済学部に進学し、経営を学ぶ。大学を卒業した2020（令和2）年に福村板金に入社。現在、加賀青年会議所の事務局次長としても活躍。

株式会社福村板金（加賀市）

現社長の福村貴司さんが、2005（平成17）年に起業、2021（令和3）年に法人化。板金加工の大半は外注化し、板金工事に特化している。「小さい会社でも、しっかり人材を育て、加賀市を引っ張っていく存在になりたい」と福村社長。【所在地】加賀市黒崎町ヌ104番地【資本金】500万円【代表者】福村貴司

「自分らしく」を大切に
技術が分かる経営者を目指す！



古い納屋をカフェ風に改装した事務所。左官職人の技が光る内装もおしゃれなんです

職人のこだわり

休憩時間は、お気に入りのグラスにアイスコーヒーを注ぎ、デザートにもちょっとこだわって

未来が明るい!!

仕事の夢

人を育て、会社を育てたい

若い職人さんが働きやすい環境を整え、父が立ち上げた会社を自分が大きくしていきたいです。私らしさも大切に！

建築板金職人までの道のり

◎家業を継ぐべく、小松商業高等学校から金沢星稜大学経済学部に進学

↓

◎（株）福村板金に入社、加賀青年会議所（加賀JC）に入会

↓

◎入社2年目の年に、卒業する母と入れ違いで建設共同高等職業訓練校に入校

「現場ごとに覚えることはたくさんありますが、『日々成長』をモットーに向上心を持って取り組んでいます」（福村さん）

「ものづくり」だけでなく「仕事づくり」にも携わる

建築板金は技術が基本の業界ですが、「ものづくり」だけでなく、「仕事づくり」も大切な仕事です。福村愛理さんは、この業界に入って3年目。基礎となる板金技術を学びながら、「仕事づくり」に関わる知識を増やし、人脈を広げているところです。

福村さんが小学生の頃、父の貴司さんが個人事業で福村板金（加賀市）を起業しました。「その当時は、建築板金がどんな仕事なのかは分かりませんでしたが、父が現場を飛び回って忙しく働いていることは分かりました。明るく、前向きに、そして一生懸命に仕事に取り組む父の姿が身近にあったことで、長女である自分が仕事を受け継ぎたいと思うようになりました」

福村さんは経営について学ぶため、小松商業高等学校を経て金沢星稜大学経済学部に進学。卒業と同時に福村板金に就職しました。

経営の知識を周りから学び、福村板金の存在を周りに発信

現在は事務作業を行う傍ら、営業として工事の段取りをしたり、職人として現場に出たりと、マルチタスクをこなしています。

営業としての福村さんは、人脈を広げるため、福村板金に入社したタイミングで加賀青年会議所（加賀JC）に入会しました。「『大学を卒業したばかりの22歳の女性が会員になる』というのは、いろんな点で加賀JC史上初だと言われました」と笑う福村さんですが、さまざまな業界の経営者やビジネスパーソンと交流することで、学ぶことはたくさんあります。

同時に、建築板金業界は世の中であまり知られていないということに気づきました。板金といえば自動車の修理のイメージがあり、「金属板を加工して屋根や外壁などを施工する建築職種です」と説明することが多いそう。周囲から学び、周囲に発信することで、地域における福村板金の存在感を高めています。

建築板金の専門的な知識・技術を持った次世代の経営者として成長を

職人としての福村さんは、現場に立ちつつ、週に一度、職業訓練校に通っています。「もともと器用な方ではないので、苦労しています」という福村さん。足場に何度も頭をぶつけてしまうなど、慣れないことはたくさんありますが、お客様のニーズに応えるためには技術的なバックグラウンドが欠かせません。

女性職人の先輩は身近なところにいます。母親のみどりさんです。もともと福村板金の事務を担当していましたが、一念発起して建設共同高等職業訓練校に入校。2級建築板金技能士の資格を取得し、全国建築板金競技大会（建築技術の部）で6位に入賞した実力者でもあります。

「この業界で女性はまだまだ珍しく、現場に立つと『かっこいいね』とお客様に褒めてもらえることもあります。女性でも普通に活躍できるんだということを、たくさんの人に知ってほしいです」

福村さんは、建築板金の専門的な知識・技術を持った次世代の経営者として、一歩一歩成長しています。

有限会社シマコー

大藏 蓮さん

Okura Ren

Profile

小松市生まれ。小松工業高等学校を経てシマコーに入社。父親が市内で建築板金業を営んでおり、将来的には大藏さん本人を含め 4 兄弟で家業を支える予定。趣味はバイクで、カワサキの ZEPHYR X 400 に乗っているが、エンジン音が大きいので通勤使用は自粛。

有限会社シマコー（小松市）

1982（昭和 57）年創業。大手工務店からの仕事を中心に行う。組合の横のつながりを大切にし、同業者で協力し合って良い仕事をし、良い人材を育てている。「石川が誇る建築板金の技術を、若い世代につなげたい」と島田社長。【所在地】小松市丸内町鹿小屋 3-2【資本金】900 万円【代表】島田裕司

職場の人は優しくて、仕事に自信と誇りを持つ人ばかり。社長には「蓮」と名前で呼ばれています

職人のこだわり

愛車のカワサキ ZEPHYR X 400です。職業柄、細かい作業は得意なので、手入れは怠りません！

充実してるね!!

仕事のやりがい

お客様の喜びと自分の満足がつながること

お客様に「きれいに仕上がった」と喜んでもらい、自分でも「きれいに仕上がった」と満足できたときに、大きなやりがいを感じます。

建築板金職人までの道のり

◎（株）大藏建築板金の三男として生まれる

↓

◎兄に続いて小松工業高等学校に入学

↓

◎家業に入る前の修業として（有）シマコーに入社

「シマコーでいろんな現場を体験させてもらい、建築板金技能士 1 級の資格を取得した後、家業に戻る予定です」（大藏さん）

自分の家だと思い、心を込めて仕事をするのが「職人」

シマコー（小松市）入社 2 年目の大藏蓮さんは 19 歳です。1 年目は、言われたこと、目の前のことをこなすだけで精一杯でしたが、2 年目の今は、周りの様子を見ながら手を動かす余裕が生まれ、自分で判断できることも増えたそう。四季もひととおり経験し、「夏の暑さ、冬の寒さは大変ですが、ぽかぽかと暖かい春や、空気が澄んだ秋は、屋根の上の作業も気持ちいいものですよ」と教えてくれました。

朝、会社に出勤し、前日に準備しておいた道具類を確認した後、現場へと出発。休憩時間や昼食を挟みつつ、金属の屋根、外壁、雨どいなどの施工を行います。その日の作業が終われば会社に戻り、道具の手入れをして翌日に備えます。

日々の仕事の中で大藏さんが大切にしているのは、お客様の家を自分の家だと思って、丁寧に心をこめて施工することです。「そうでなければ職人じゃありません」ときっぱり。きれいな仕事を心がけることで、自然にモノを大切にする気持ちが生まれ、身の回りのものも丁寧に扱うようになったといいます。

失敗をフォローしてくれる先輩に育ててもらっている

一人前の建築板金職人になるために学ぶべきことは、まだまだたくさんあります。

「先輩は動きにムダがなく、真似したいことだらけです。技術的なことはもちろん、どうすれば効率的に作業を進めることができるのかという現場の回し方の面でも参考になることが多いです」

新人ならではの失敗もあります。折板屋根に取り付けるエプロン面戸と呼ばれる部材を 3 辺ともしっかりコーキングしてしまい、先輩に「これじゃ雨水が抜けないぞ」と言われて青くなったことがあります。先輩の手を借りてやり直し、工事は問題なく終わりましたが、直後はかなり落ち込んだそう。「『そういう失敗は、職人なら誰もが経験することだから』と慰め、フォローしてくれる社長や先輩に育ててもらっています」と大藏さんは話します。

安定した職場環境を求めて異業種から転職してきた人も

毎週火曜は現場を離れ、建設共同高等職業訓練校に行く日です。同校では大藏さんと年齢が近い若手も学んでおり、格好の交流の場ともなっています。

大藏さんたちの世代は、石川の建築板金業界の次世代を支える世代です。

「自分は親が板金屋ということでこの仕事に就きましたが、シマコーには『この業界、この会社は安定しているから』という理由で異業種から転職してきた 22 歳の社員もいます。現在は家の外壁や屋根といえばガルバリウム鋼板など板金が主流になっています。台風や大雨の被害の修繕や、災害に備えたリフォームの案件も増えており、建築板金の仕事がなくなることはないという実感があります」

力強い言葉を聞かせてくれた大藏さん。まずは 2 級建築板金技能士の資格取得を目指して、学び、成長しています。

有限会社上内板金工業

今井 雄貴さん

Imai Yuki

Profile

小松市生まれ。小松北高等学校（定時制）出身。2018（平成30)年、在学中から上内板金工業に勤務。「職人と聞くと、頑固そうなイメージがありましたが、上内板金工業はそんなことはありません。一から丁寧に教えてもらっています」と今井さん。建築板金職人として着実に成長中です。

有限会社上内板金工業（小松市）

1989（平成元）年設立。小松市を中心に南加賀エリアで住宅リフォームを中心に幅広い建築板金を手がける。一般の方との仕事も多く、確かな技術力と対応力を武器に、予算やデザインなど幅広いニーズに応えている。【所在地】小松市大領町そ82 【資本金】300万円 【代表】上内和法

社長とともに忙しく現場へ
一歩ずつステップアップを

最初は緊張した屋根の作業ももはや慣れたもの。上内社長の指示を受けながら、いろいろな経験を重ねています

職人のこだわり

現場での仕事道具ですが、これはまだ一部。工事内容に応じて使い分けています

仕事の夢♥ まずは一人前に!!

まずは現場での経験を重ね、一人前の建築板金職人になることが目標です。1級建築板金技能士の資格取得も目指しています。

建築板金職人までの道のり

◎手先が器用で、ものづくりにも興味

◎知人の紹介を受け、（有）上内板金工業に就職

「ゼロからのスタートでしたが、社長にマンツーマンで教えていただいています」（今井さん）

細部にまで気を配り、きれいな仕上げを徹底

入社5年目、今井雄貴さんは上内板金工業（小松市）に勤める若き建築板金職人です。南加賀エリアの住宅を中心に、屋根や外壁、雨どいなどの施工を担っています。そんな今井さんに、建築板金のいろはを教えてくれたのが、同社社長の上内和法さんです。常に2人1組で現場に向かい、実践の中で指導を受けながら技術を磨いています。

「建築板金の仕事は奥が深い。今は、もっともっと仕事ができるようになることが第一で、学ぶことがまだまだたくさんあります」と話す今井さん。とりわけ、上内社長の目が厳しく光るのが、細部の仕上げです。屋根や外壁にわずかでもミスがあれば、雨漏りなどのトラブルの原因になってしまいます。

屋根の上での作業など、危険を伴う場面も少なくなく、安全面への配慮も欠かせません。「社長に何度も指摘される中で、きれいな仕上げと安全への意識は高まっています」（今井さん）。日々の仕事を通して、建築板金職人としての技と心が、次の世代へと受け継がれています。

子どもの時の趣味は切り絵。手先の器用さを生かしたい

今井さんが上内板金工業で働くようになったきっかけは、お世話になっている方からの紹介でした。前々から「将来は外で体を動かして働く建築業に就きたい」と考えていたそうで、建築板金について話を聞く中で仕事への興味はどんどん高まっていきました。

加えて、職人仕事ならば手先の器用さも生かせると思いました。「プラモデルを作るのが好きでしたし、小学校の時から趣味で切り絵もしていたんです」と今井さん。自身の得意分野を発揮しながらものづくりに携わりたいと考え、建築板金の道に踏み出しました。

初現場は高さ12メートル高所作業に冷や汗

こうして建築板金職人として歩み始めた今井さんですが、その第一歩は苦い体験とセットになって思い出されます。初めての現場はヘリコプターの格納庫。仕事をするためには、高さ12メートル以上の屋根に上る必要があります。「安全帯を着けてはいますが、正直、怖かったですね」と、冷や汗をかいた初仕事を振り返ります。

その後、住宅や店舗など数々の現場を経験する中で、暮らす家族や利用する人たちの笑顔につながるものづくりにどんどん魅了されていったとのこと。「上内板金工業はとても居心地がいいですし、今は仕事がとても楽しい。毎日が充実しています」と、今井さんは笑顔で教えてくれました。

そんな若き職人の成長を近くで見守ってきたのが上内社長です。「業界はもちろん、住宅に関する意識や感覚も、これからどんどん変わっていきます。建築板金のスキルを核としながらも業種の垣根にしばられることなく、広い視野で成長していってほしいと思います」。上内社長は、前例にとらわれず、新しい時代の職人像を築いていくことに期待を寄せています。

株式会社越野錺工所

越野 巧さん

Koshino Takumi

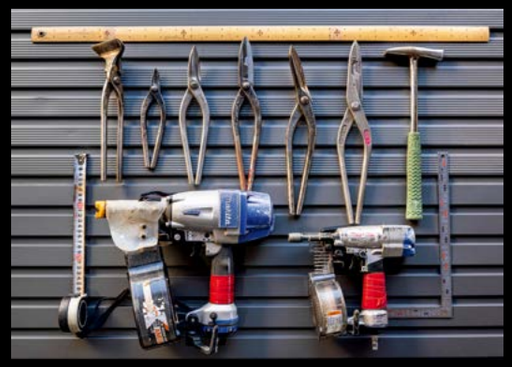
Profile

能美市生まれ。小松大谷高等学校出身。高校卒業後、建設機械メーカーに 3 年間勤務。2019（平成 31）年 4 月、越野錺工所に入社。次代を担う建築板金職人として先輩のもとで研さんを重ねる。「完全にアウトドア派です」（越野さん）とのことで、趣味はスノーボードやジェットスキーなど。

株式会社越野錺工所（能美市）

加賀エリアを中心に、工場やドラッグストアなどの大型施設の建築板金を数多く手がける。数々の成型加工機を取りそろえ、現場や要望に応じてオーダーメイドで対応できる点が同社の特色。【所在地】能美市寺井町ソ 151-3　【資本金】1000 万円　【代表】越野正　【従業員数】7 名

越野錺工所には、多種多様な加工機がそろっています。仕様の変更などにも柔軟に対応しています



職人のこだわり

板金ハサミ、インパクトドライバー、メジャーなど多彩な工具を手に現場に向かいます

なるほど〜!!

仕事のやりがいは大きな達成感！

建築板金は同じことを繰り返す仕事ではなく、臨機応変さが求められます。難しいですが、それ以上に大きな達成感が得られますよ。

建築板金職人までの道のり

◎高校卒業後、建設機械メーカーに就職

↓

◎ 3 年後、（株）越野錺工所へ入社

「異なる業界を経験したことで、建築板金の仕事の魅力をより強く実感できています」（越野さん）

大型施設を中心に幅広く夏場の作業は暑さとの闘い

建築板金職人の現場仕事は朝 8 時ごろから始まります。入社 4 年目、越野錺工所（能美市）の越野巧さんは朝早くに出社し、社内で必要な板金道具や鉄板などをトラックに積み込み、北陸各地のさまざまな現場へと同僚とともに向かいます。「工場やドラッグストアといった大型施設をメインで手がけています」と越野さん。時には、80 メートルを超える大きな屋根に 10 数人の職人と一緒に上り、キックボードのような運搬器具で鉄板を運びながら一気に施工することもあるそうです。

夏場になると屋根の上は 40 度以上に達します。強い日差しを受けながらの作業はどんなベテランであっても難敵で、小型扇風機のついた作業着を着用し、水分補給やこまめな休憩を取りながら作業にあたっています。空調のきいた屋内での仕事とは異なる環境かもしれませんが、越野さんは「やりがいはとても大きい」ときっぱり。充実した表情でふき出る汗をぬぐいます。

多彩な技術を生かしたものづくりに達成感

越野さんにとってこの仕事の魅力は、ものづくりの世界にどっぷりと触れられることと言えるでしょう。同社で取り扱う屋根材や外壁材は 10 種類ほどあり、その形状や用途に合わせて使う板金ハサミも異なります。測り方や切り方なども施工方法などに応じて全く違い、現場では一度や二度聞いただけでは覚えられない専門用語が当たり前のように飛び交っています。

「いかに経験を積むかが大切です。僕なんてまだまだ。修業中の身ですよ」と頭をかく越野さん。それでも、新しい発見にあふれ、常に学び続けることが大切な建築板金職人の仕事の楽しさは日々、感じている様子です。

もちろん、たくさんの職人が汗を流し、建物が完成した時の達成感も大きな魅力。「関わったお店や工場を見かけると、ついつい友達に自慢してしまいますね」と笑います。

コミュニケーションを大切にスキルアップにも注力

建築板金職人としてはスタートを切ったばかりの越野さん。仕事をする上で大切にしているのは、周囲とのコミュニケーションです。分からない点があれば先輩に積極的に質問するように心がけています。加えて、毎週火曜日には建設共同高等職業訓練校にも通っています。同じ建築板金に携わる同世代の学生が多く、同校の技能照査合格で 2 級建築板金技能士の学科試験が免除に。越野さんもクラスメイトと切磋琢磨しながら資格取得を目指しています。

これら一つひとつの経験がステップアップにつながっており、「技術も知識ももっともっと身につけなければ。そして、地域の方々に信頼され、3 代にわたって続く越野錺工所を受け継いでいきたいと考えています」と越野さん。若き建築板金職人の成長ストーリーは始まったばかりです。

株式会社タケノ

山田 千晶さん

Yamada Chiaki

Profile

加賀市生まれ。大聖寺高等学校、文化女子大学（東京、現文化学園大学）出身。大学卒業後、父が経営するタケノに勤務。転勤の多い夫と結婚し専業主婦に。子育てが落ち着いたことから2013（平成25）年に同社に再就職。建築板金職人としてきめ細かな施工に心を砕いている。

株式会社タケノ（野々市市）

1923（大正12）年創業の県内を代表する建築板金企業。屋根・外壁・雨どいの工事を専門に手がけ、住宅や倉庫から大型建造物まで多岐にわたる施工を請け負う。【所在地・本社】野々市市押越1丁目42番地　【資本金】1400万円【代表】竹野一茂　【従業員数】33名

課題を完成させられなかった悔しさが
1級建築板金技能士合格につながりました

職人のこだわり

安全面には細心の注意が大切です。高所作業時にはしっかりとハーネスを着用します

仕事の夢♥

歴史に残したい！

金沢城公園では二の丸御殿などの復元工事が計画されています。せっかく職人になったからには、歴史に残る事業に参加したいですね。

建築板金職人までの道のり

◎事務員だった40代半ばから建築共同高等職業訓練校に通い基礎を身につける

「息子とあまり変わらない年齢の同級生と机を並べ、一緒に製作に取り組む時間もとても楽しかったですね」（山田さん）

現場に合わせて工場で加工することもしばしば。折り曲げたり、切断したりと、さまざまな機械があります

数少ない女性職人として さまざまな建設現場へ

かつては圧倒的に男性が多かった建築板金の世界にも少しずつ女性の活躍が目立ち始めています。タケノ（野々市市）の山田千晶さんもその一人です。工場や体育館、ドラッグストアなどを中心に、さまざまな建設現場に足を運んでおり、大型施設になると20人ほどの職人とともに汗を流すことも。男性職人に囲まれながら、山田さんは負けず劣らずの仕事ぶりを見せています。

そんな山田さんですが、建築板金職人になってからの道のりは順風満帆だったわけではなく、自身の力不足を痛感する出来事がありました。1級建築板金技能士の資格取得に初めて挑戦した時、山田さんは試験終了と同時に不合格を確信します。なぜなら、実技試験で出された課題を仕上げることができなかったからです。

「悔しかった」と言葉少なに振り返る山田さん。ただ、決して下を向くことはなく、業務が終わった後や休日を利用して練習を繰り返しました。そして、翌年の再挑戦で1年間の努力が実を結びます。県内女性初の1級建築板金技能士への合格を果たしたのです。

一人でなく、チームで挑むからこそ 完成した時の達成感はひとしお

建築板金職人の道に飛び込んではや10年。「寒風が吹きすさぶ冬の現場は手がかじかんで思うように動きません。何年たってもつらいですね」と話す山田さんですが、その表情には職人仕事に対する日々の充実感もはっきりと浮かんでいます。

大きなやりがいとなっているのが、完成した時の達成感です。手がける物件の多くは地域のランドマークや多くの人でにぎわう店舗などで、「建設に携わった現場近くに足を運んだ時には、ちょっとだけ遠回りをして見に行くこともあります」と笑う山田さん。一人ではなく、チームで挑戦した現場の一つひとつが思い出深い場所になっています。

金沢城鼠多門の屋根に 繊細な手仕事が生きる

建築板金の現場にはさまざまな作業があり、大型施設の現場では職人一人ひとりの得手を生かしながら施工にあたることが重要です。そんなチームの力が発揮された一大事業が、山田さんも参加した金沢城鼠多門の復元工事でした。屋根に使われたのは、普段の現場ではあまり使わない鉛板。軟らかい材質で、いつも扱っている鉄板と同じ要領でたたいて伸ばしていると割れてしまうことがあったそうです。そんな中、山田さんをはじめとした女性職人の細やかな手仕事が、きれいな仕上がりにつながりました。

「往時のお城を忠実に再現する復元工事を通して100年以上前の職人技に触れられ、たくさんの学びがありました。金沢城公園では総仕上げとなる二の丸御殿の復元計画が進んでいます。この事業にもぜひ参加したい」と山田さん。世紀を越えて受け継いでいく令和の城づくりを控え、一層のスキルアップに余念がありません。

有限会社久野板金工業

大桑 匡人さん

Okuwa Masato

Profile

金沢市生まれ。内灘高等学校出身。高校卒業後、アルバイトを経て建築板金業の会社に勤務。その後、家業の建築板金業に携わった後、2006（平成18）年に久野板金工業に入社。県内各地の現場を回りながら、住宅の新築・リフォームを幅広く担当している。趣味はクルマ。

有限会社久野板金工業（金沢市）

1947（昭和22）年設立。職人一人ひとりが誇りと技術力を生かし、一切妥協することなく、確かな仕事に誠心誠意取り組んでいる。福利厚生の充実など、次代を見据え、職場環境の充実にも注力している。【所在地】金沢市疋田1丁目27 【資本金】300万円 【代表】久野真吾

現場での対応力は欠かせません。
パズル好きには向いているかも

たくさんのプロとの連携プレーが家づくりには不可欠。丁寧な仕事を心がけ、次工程を担う職人さんにバトンを渡します

職人のこだわり

会社ロゴをあしらったパーカー、帽子を身につけると、気持ちも引き締まります

頑張ってい!!

仕事のやりがいで職人同士の絆

いろんな職人と一緒に取り組めることがやりがいです。プロ同士、コミュニケーションを深めながら、よりよい家づくりに励んでいます。

建築板金職人までの道のり

◎高校卒業後、1年ほどアルバイト生活

↓

◎板金会社に就職。2社で経験を積み、（有）久野板金工業に

「現在勤める久野板金工業の社長は訓練校（建設共同高等職業訓練校）の同期です。一時、板金の仕事を辞めようかと思い悩んだ時に声をかけてもらいました」（大桑さん）

職人技が結集し住宅が完成する

住宅の建築板金を主力とする久野板金工業（金沢市）の大桑匡人さん。この道20年以上を数えるベテランで、大工や設備工事など、現場には顔なじみの職人が少なくありません。

「住宅は1から10まで一人でつくるものではありません。いろいろな職人の力が集まってようやく完成します。私たち建築板金職人もその一人です」。

こう話す大桑さんは、さまざまな工程を担う職人とのコミュニケーションを大切にしています。なぜなら、その意識がよりよい住まいづくりにつながるからです。「例えば、下地から配線が出ている場面を想像してください。そこに外壁を張り付ける時、この線をどこから通して出せば完成時によりよく見えるか、次工程の電気屋さんが作業しやすいかを考えて作業しています」と大桑さん。目の前にある建築板金の工程だけではなく、現場監督や他工程の職人にこまめに確認しながら完成形を見据えた仕事に心を砕いています。

寸分違わずにピタリ その心地よさも魅力

大桑さんの毎日は忙しく過ぎていきます。仕事がひと段落したからと安心する間もないほどに新しい現場を回って作業をしたり、施主や同業者と打ち合わせをしたりと、県内各地を行き来しています。このように、数え切れないほどの住宅を手がけてきた大桑さんでも、「同じ現場は一つもありません」と言い切ります。

だからこそ、建築板金の仕事には現場での対応力が不可欠。ただ、そのスキルはどれだけテキストをめくっても身につくものではなく、真摯に仕事と向き合い、経験値を積み重ねていくほかにありません。

簡単に一人前にはなれないかもしれません。しかし、その分、やりがいが大きいのも建築板金の仕事です。「もしかしたら、パズル好きの人には向いているかも。建築板金職人は建材を加工し、ピースも自ら作りますし、現場でピタリとはまった時は心地いいですよ」。大桑さんは仕事の魅力をこう教えてくれました。

一つひとつの現場をこれからも全力で

大桑さんがこの業界に身を置くようになったきっかけは、建築板金業が最も身近な職業だったからと言えます。実家が建築板金業を営んでおり、社会人として一歩を踏み出す時、真っ先に思い浮かんだそうです。

そんな大桑さんでしたが、初めて現場に足を運ぶ際は心臓がバクバクだったと言います。なぜなら、「職人の仕事現場というと、言葉少なく厳しい世界を想像していた」（大桑さん）からです。ただ、出会った職人は皆さん、優しい方ばかり。先輩たちに教えてもらいながら、一歩ずつ成長を重ねてきました。「これからも職人同士、力を合わせ、いい仕事を続けていくだけです」。優しい笑顔を浮かべ、こう話す大桑さんは、これからも気負うことなく、一つひとつの現場に真剣に向き合っていきます。

有限会社ブリキンながい

永井 久椰さん

Nagai Hisaya

Profile

金沢市出身。日本航空高等学校石川卒業後、ブリキンながいに入社し、建築板金職人に。住宅の新築・リフォームを中心に担当。現場は県内が主だが、時に県外から依頼が来ることも。「大阪に出張し、1カ月住み込みで大型スーパーを施工したことがあります」と永井さん。

有限会社ブリキンながい（金沢市）

1966（昭和41）年に創業し、2006（平成18）年に法人化。一般住宅の建築板金を手がけており、特に室内を快適な環境に保つための遮熱リフォームは同社ならではの大きな強み。【所在地】金沢市桂町ニ39番地1 【資本金】500万円 【代表】永井紀久 【従業員数】6名

いいね!!

仕事を任せてもらうことで、
やりがいはより大きくなります

永井紀久社長（写真左）と現場で綿密に打ち合わせ。しっかりとコミュニケーションを取りながら着実な仕事を心がけています

職人のこだわり

現場では音楽を聴きながら作業することが多いですね。お気に入りはK-POP！

仕事のやりがいで 責任感が充実感に

仕事の面白さをより感じるようになったのは、一人で任せてもらえるようになってから。責任感の大きさが、充実感にもつながっています。

建築板金職人までの道のり

◎高校時代、（有）ブリキンながいでアルバイト

▼

◎卒業後、就職。本格的に職人の道へ

「中学生の頃、夏休みの宿題で、銅板で折ったハトを提出しました。この時から銅板を折ったり、切ったりするのが楽しかったですね」（永井さん）

山谷を越えて 職人の道を歩む

どんな職業でも一人前になるためには、大きな山を乗り越え、険しい谷からはい上がる経験が必要なのかもしれません。建築板金職人となって9年目、ブリキンながい（金沢市）で住宅の新築・リフォーム工事を手がける永井久椰さんも、こだわりの強い職人の世界に悩んだこともあれば、目の回るような忙しさに追われた日々もありました。数え切れないほどの現場で頭と体をフル稼働させる中で、建築板金の技術と知識を一つひとつ身につけていったのです。

そして、3年ほど前からは本格的に現場仕事を任せてもらえるように。「工事の段取りを一人で担当するのですから責任は段違いに、大きくなりました。ただ、それ以上にやりがいを感じています」と話す永井さん。丁寧に、美しい仕上がりを徹底するまじめな仕事ぶりは、ブリキンながいへの確かな信頼へとつながっています。

「おまえならやれる」。先輩の言葉が励みに

建築板金で求められるスキルの一つに、現場での対応力が挙げられます。いかなるベテラン職人でも計画通りに進むことはほとんどなく、実際に作業にあたる中で突然の難問が降ってわいてくることがよくあります。

「駆け出しの頃、想定外の出来事が起きると、思わず『ムズッ』と口をつくことがありました」と、永井さんは笑います。そんな時、背中を押してくれたのが、仕事のやり方を教えてくれた建築板金職人の先輩でした。「おまえならやれるわいや」。ポジティブな言葉でいつも励ましてくれたそうです。

また、目の前に起きる問題に頭を悩ませ、何とか解決していくことで、建物は徐々に形になっていきます。「完成の度合いに比例するように達成感も高まっていきます。この感覚を味わえるのが建築板金の魅力です」（永井さん）。どの現場も思い入れが強く、これまでに手がけた一つひとつを鮮明に覚えていると言います。

未来の職人と一緒に よりよい職場づくりを

ブリキンながいでは、よりよい職場環境の整備に力を入れています。その一環として、年間を通してさまざまなイベントを企画。社員だけでなく、お世話になっている業者さんも招き、バーベキューや新年会などを開催しており、親睦を深める中で高まるチームワークも同社の大きな強みです。

もちろん、これからの建築板金業界を担う人材の採用・育成も積極的に進めていく計画です。「不器用でも、特別な資格がなくても構いません。明るく、元気でまじめであれば大丈夫。ゼロからスタートする若い人たちと一緒に、楽しくやりがいのある現場をつくっていくのが目標です」とビジョンを語る永井さん。10年、20年先の会社の未来像を思い描きながら、今日も忙しく建築板金の最前線に立っています。

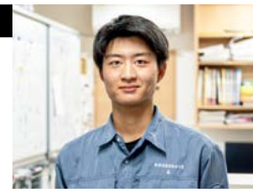
株式会社勝泉建築板金工業

嵐 祐稀さん

Arashi Yuki

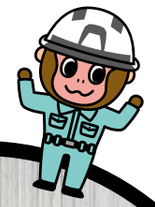
Profile

羽咋市生まれ。小さい頃からバスケットボールに親しみ、鵬学園高等学校時代はバスケ部で活躍。金沢科学技術大学校（Kist）の建築学科で学んだ後、令和4（2022）年4月に勝泉建築板金工業に入社。今も週一でバスケの練習をしているほか、趣味のドライブも楽しむ。



株式会社勝泉建築板金工業（津幡町）

1935（昭和10）年に初代が銪職人として「勝泉ブリキ店」を設立。その後、時代の流れとともに建築板金業へと移行。1992（平成4）年に法人化。現在の勝泉昌紀社長は3代目で、兄弟4人で役割分担しながら経営の舵を取る。【所在地】河北郡津幡町清水チ372-4 【資本金】1000万円 【代表】勝泉昌紀 【従業員数】9名



職人さんっ!!

仕事のやりがい

できるようになることが喜び

ゼロから建物が完成する達成感も大きいですが、僕個人としては「できなかったことが、できるようになること」に喜びを感じます。

建築板金の仕事を通じて、
ものづくりの楽しさに目覚めました

株式会社だけどアットホーム、アットホームだけど仕事となるとピリッとした緊張感があります

職人のこだわり

営業車には毎朝、現場に必要な道具だけを積み込みます。道具の整理整頓は職人の基本です！

建築板金職人までの道のり

◎専門学校の建築学科で学ぶ

↓

◎就職活動を経て、（株）勝泉建築板金工業に新卒入社

祖父が建築板金、父が設備工事という職人家系の家に生まれ育ち、自然にこの道を選びました。実は、僕の双子の弟は設備関係の会社で働いています。いつか兄弟で合流して家業を大きくする…という未来もあるかもしれません。（嵐さん）

建築板金の仕事は チームワークが重要

5年ほど前に新築したという事務所棟は、道路に面して鋼板の外壁が美しいアールを描き、建築板金の技をアピールしています。勝泉昌紀社長が「2Fは従業員の休憩所になっているんですよ」と教えてくれました。

嵐祐稀さんはこの勝泉建築板金工業（津幡町）の最年少メンバーです。入社半年の感想を聞くと、「楽しいですよ」とポジティブな言葉が返ってきました。先輩と一緒に作業をしながら道具の使い方や施工技術について学ぶ毎日。その日の作業内容にもよりますが、朝は7時頃に出社し、クルマに資材を積み込んで現場へと出発。朝礼を行った後、加工した金属板を屋根や外壁に取り付ける作業をスタートします。17時頃には会社に戻り、道具類を整理整頓して一日の業務を終えます。

嵐さんの「屋根仕事」のデビューは真夏でした。20メートルもの長尺の材料を5～6人がかりで抱え持ち、屋根の鉄骨の上をペースを合わせて歩きます。「暑い、怖い、重いでしたが、チームワークの心強さも知りました」と嵐さんはやっぱりポジティブです。

美しい「おさめかた」を 先輩の仕事ぶりに学ぶ

経験を積んだ先輩の仕事ぶりに学ぶことはたくさんあります。「建物によって形状が異なる屋根や外壁に合わせて、どのように金属板を施工していくか。さまざまなやり方がある中で、先輩はその場に合った『おさめかた』を即座に判断し、美しくスピーディーに仕上げます。自分は先輩と同じことはできないので、まずは時間をかけて丁寧に仕上げることから始め、そこからスピードを上げていくことを意識しています」。

特に形状の複雑な屋根は板金がさまざまな角度に入り組んでおり、角同士がぶつかる部分のおさめかたは、まさに職人技です。

公共施設など大きな現場に携わる一方で、地域に根差した会社として納屋を撤去するような小さな工事も行います。そんなときは「ごくろうさま」と差し入れをもらうこともあり、お客様と直接ふれあう楽しさも実感しています。

職業訓練校で学び 建築板金技能士の資格を目指す

任された仕事をきちんとこなす、一人前の職人になることが目標だという嵐さん。その証となる建築板金技能士資格を目指し、週に一度、建設共同高等職業訓練校に通って、建築板金の技術と知識を深めています。

板金の仕事をするようになって、自分の中で変わったことがふたつあると嵐さんはいいます。ひとつは、板金が用いられている建物に自然と目が行くようになり、「難しい仕事をしているな」「これはちょっと雑かな」などと職人の腕を想像するようになったこと。もうひとつは、手を動かしてものをつくることが楽しくなったこと。自宅の古い倉庫をおしゃれなガレージに変身させようと、休日は朝から晩まで改装作業に没頭しているそう。ものづくりの発想と技術は、プライベートも豊かにしてくれます。

有限会社向田鈑金工作所

向田 雄治さん

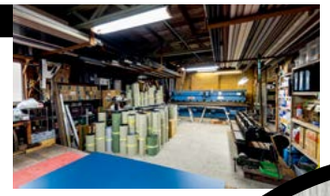
Koda Yuji

Profile

七尾市出身。鵬学園高等学校卒業後、住宅関連会社に就職。2013（平成 25）年に父の茂雄さんが代表を務める向田鈑金工作所に入社。七尾に拠点を置き、県内全域で住宅の新築・リフォーム工事を担当。趣味は釣り。「志賀町富来から船に乗り、アラやブリを狙うこともありますよ」（向田さん）

有限会社向田鈑金工作所（七尾市）

1935（昭和 10）年創業、1963（昭和 38）年に法人化。主に住宅関係の建築板金を手がける。向田茂雄社長で 3 代目となり、「お客様の満足度第一」をモットーに地域密着の仕事ぶりで高い信頼と実績を築いている。【所在地】七尾市府中町 60 番地の 2 【資本金】300 万円 【代表】向田茂雄



「きれいになった」。施主さんからの感謝の言葉が仕事と向き合う活力に

いろいろな機械もありますが、職人には手仕事も大切です。技能士の資格試験には実技もありますよ

職人のこだわり

職人仕事には体力も必要。昼食は彼女お手製の弁当でパワーを補給しています！

仕事の夢♥ 文化財修復に挑戦を

現在、金沢城公園の三十間長屋の改修が計画されています。建築板金職人としてさらなる成長を目指すためにも、携わりたいですね。

建築板金職人までの道のり

◎高校卒業後、建築会社に勤務

▼

◎社会経験を積み、建築板金の世界へ

「入社後、訓練校（建設共同高等職業訓練校）にも通いました。同じ教室で机を並べた同期の職人とのネットワークもでき、通ってよかったですね」（向田さん）。

丁寧な作業を信条に 1 軒 1 軒に対応

「とてもきれいになった。ありがとう」。向田鈑金工作所（七尾市）の向田雄治さんにとって、この言葉が仕事と向き合う上で一番の活力になっています。

同社では住宅の屋根や外壁、雨どいなどのリフォームをメインとしており、一般の方々との接点も少なくありません。「少しでも傷が残ると、そこから錆びて雨漏りの原因になります。“とにかく丁寧な仕上げ”は、社長からも口酸っぱく言われていますし、何を置いても心がけています」と向田さん。だからこそ、お客様からの感謝の言葉を聞くと、自然と顔がほころぶのだとか。「建築板金の仕事は外での作業がほとんど。夏は暑く、冬は寒いなど、厳しいところも確かにありますが、施主さんの喜ぶ顔を見ると、そんな苦労も一気に報われます」と笑います。

働き始めて分かった 職人の仕事ぶりに驚き

父が建築板金職人の向田さんにとって、この仕事は最も身近な職業であり、中学生の頃から手伝いに汗を流すこともあったそうです。そんな向田さんでも就職してすぐに職人仕事に慣れたわけではありません。やはり、サポート役と実際に働くのは全くの別もの。精も根も尽き果てた状態で、何とか家路につく日が続いたそうです。「父はそんな 1 日を何十年も繰り返してきました。同じ職業に就いたことで、その大変さが身をもって分かりました」と振り返ります。

加えて、失敗や小さなケガを何回も経験したと言います。「人間ですから、どんなベテランでも失敗することはあります。むしろ、それを今後のための糧にできるかどうかが大切です」。建築板金職人の大先輩でもある向田茂雄社長のアドバイスを受けながら、向田さんは職人として一歩ずつ成長を重ねています。

重要文化財・三十間長屋の改修に力を発揮したい

取材に訪れる 1 週間前、向田さんのもとにはうれしい知らせが届きました。建築板金職人にとって目標の一つとなる 1 級建築板金技能士への合格を果たしたのです。雨どいの施工作業に用いる八千折りや、1 枚の鉄板をたたいて縁を形づくっていくかり出しなど、休日にまで工場に詰めて腕を磨いた成果が発揮されました。

これからを担う建築板金職人として活躍する向田さんが、いま目標としているのが、金沢城公園内の重要文化財・三十間長屋の改修作業に参加することです。「屋根に用いる鉛は、普段の住宅で使っているトタンよりも軟らかく、傷つきやすい素材です。扱いが難しいのですが、職人としてレベルアップするためにも改修作業にぜひ携わりたいですね」。向田さんはこう話し、文化財工事に関わる講習会などに積極的に参加。100 年先も 200 年先も残る地域の宝を形づくる仕事に腕まくりしています。

塩山板金工業所

佃 幸二さん Tsukuda Koji
塩山 駿介さん Shioyama Syunsuke

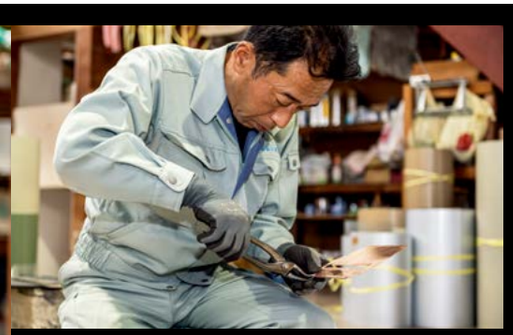
Profile

佃 幸二さん（写真左）輪島市出身。輪島高等学校（定時制）卒業。1988（昭和63）年から塩山板金工業所勤務。2018（平成30）年全国板金競技大会（技能競技の部）金賞。
塩山 駿介さん（写真右）東京都大田区出身。立正大学卒業。保険や不動産会社に勤務後、2020（令和2）年から塩山板金工業所。東京から移住し、建築板金職人に。

塩山板金工業所（輪島市）

1929（昭和4）年創業。技術力の高さを誇り、住宅のリフォームなどを幅広く担う。各種資格・免許も取得し、足場の組み立てから大工工事、施工管理なども一貫して手がけている。手業を生かしたブリキアートも話題。【所在地】輪島市堀町5-33-1 【代表】塩山和也 【従業員数】4名

悔しさをバネに臨んだ3度目の挑戦で
悲願だった“日本一”の建築板金職人に



現在、全国大会を目指す後進の指導も担当。写真は大会用の見本を制作しているところです

職人のこだわり 用途別の多彩なハンダこてや板金ハサミを駆使し、大会に出場します

仕事のやりがい
感謝の言葉が喜び

仕事をした住宅の方からの「きれいになった。ありがとう」の言葉は、どれだけ経験を重ねても、うれしいものですね。（佃さん）

建築板金職人までの道のり

佃さんの場合

◎中学卒業後に就職。定時制高校に通いながら建築板金職人としても修業

「10代の頃、先代の指示でお宮の屋根材を一人で加工しました。この時の充実感は忘れられません」（佃さん）

塩山さんの場合

◎大学卒業後、東京で会社員に

▼

◎35歳の時、一念発起し、建築板金職人の道へ

「職人仕事だけでなく、経営にも興味があり、転職することを決意しました」（塩山さん）

この道に入って30年以上 卓越した技術力を発揮

塩山板金工業所（輪島市）の事務所には、水差しやアタッシュケースなど、銅板やブリキ製の多彩な作品が飾られています。いずれも1枚の板から手作業で作られており、なめらかな曲線や寸分たがわぬ精巧さにはただただ舌を巻くばかり。これらブリキアートには県外から注文が舞い込むことも少なくなく、国民的ドラマで主人公が愛用するケースの制作依頼も届いているそうです。

そんな塩山工業所の誇る圧倒的な技術力をリードする建築板金職人が、この道30年以上のベテラン佃幸二さんです。佃さんは2016（平成28）年から3年連続で全国板金競技大会（技能競技の部）に出場。18（平成30）年の第40回大会では、日本各地から集まった精鋭の中で最優秀となる金賞に輝きました。

大会は制作課題に応じて、展開図を描き、銅板から作品を完成させるまでを4時間以内に行わなければなりません。「初めて挑んだ時はペンを持つ手が震えるほど緊張しました。それでも11位に入ることができ、2年目には優勝を狙っていましたが、一つのミスが響いて5位に。本当に悔しかった」と佃さん。苦い経験をバネに、さらに腕を磨き、「勝っても負けても最後」の気持ちで臨んだ3回目で見事、日本一の建築板金職人の座をつかみました。

地元を襲った能登半島地震 復旧作業に全力を注ぐ

もちろん、日ごろの仕事でも妥協することは一切ありません。「早く、丁寧に」を心がけ、日々の仕事と向き合っています。その姿勢がより強く求められたのが、2007（平成19）年3月に発生した能登半島地震の後でした。震度6強の大きな揺れが奥能登を襲い、多くの家屋が倒壊の被害に遭いました。輪島市門前町の總持寺祖院の仮設屋根をはじめ、佃さんは市内各地の現場を奔走。息つく暇もなく、復旧作業に懸命に汗を流しました。

「この時のことは忘れられません」と振り返る佃さん。それから15年がたった今も、生まれ故郷で暮らす人の安全・安心を守る住まいづくりに全力を傾けています。

東京から移住し、建築板金職人に 目指すは業界全体の底上げ

そんな佃さんのもとで、懸命に技術の習得に励んでいるのが塩山駿介さんです。東京出身で、大学卒業後も首都圏で会社員生活を送っていましたが、35歳の時に輪島へと移住し、奥様の実家である塩山板金工業所で働き始めました。「長男が生まれ、これからのライフプランを考えました。自分がいなくても回る会社員でいるよりも、新しい業界に挑戦する道を選びました」と、塩山さんは人生のターニングポイントを振り返ります。

現在は建設共同高等職業訓練校にも通いながら技術の習得に励んでいるところ。失敗を繰り返しながらも懸命にステップアップを目指しています。「先輩はスピーディーで、正確。技術力の高さには驚くことばかりです。勉強中の身でおこがましいのですが、違う業界・地域から来たことで見えることもあります。将来的には、腕利きの職人がそろう石川の建築板金業界全体を底上げしていきたい」。大きな目標に向かい、塩山さんは走り出しています。

石川県板金工業組合について

石川県内の建築板金業者の専門団体として、1970（昭和45）年の設立以来、建築板金業界における技術や技能の発展と継承に貢献しております。石川県認定訓練校の支援や各種講習会・研修会・検定試験の実施など「技術者育成」にも力を入れております。また、組合員の事業発展や働き方改革につながる経営に関する講習会も実施しています。

主な取り組み

1 全国の仲間と競い、絆を深める

日本一の建築板金職人を決める「全国建築板金競技大会」に向けた講習会の実施や組合員の派遣にも取り組んでいます。同大会では、制限時間内に課題を製作する「技能競技の部」と、製図する「建築技術の部」の2部門があり、組合員の中から技能競技の部で日本一となった職人も誕生しています。また、「全国建築板金業者大会」にも参加し、建築板金の機械や建材、工具など最新製品の情報を入手したり、全国の建築板金業の動向や課題について意見交換をしたりと建築板金業の将来を見据えた活動にも力を注いでいます。

2 板金施工者の技術向上支援

1級、2級建築板金技能士などの国家資格取得の支援から、基幹技能士、1級・2級建築施工管理技師の育成にも力を注いでいます。お客様のご要望に幅広い選択肢の中から最善の施工法を見極められるプロフェッショナルを輩出していきたいと思っております。

3 モノづくりの楽しさを伝える

毎年、石川県産業展示館で開催されている「石川の技能まつり」に参加したり、県内各地の小学校へ出前講座「子どもマイスタースクール」に出かけたりと、板金業の魅力やモノづくりの楽しさを様々な形でPRしています。

【お問い合わせ】

石川県板金工業組合

〒921-8036 金沢市弥生2丁目1番23号（建設総合センター4F）
TEL.076-242-3050　FAX.076-245-2218
isiken-bankinkumiai@crocus.ocn.ne.jp
受付時間／9:00～17:00（月～金曜）

ホームページもご覧ください

www.bankin.ishikawa.jp　石川県板金工業組合　検索

建設共同高等職業訓練校

働きながら建築板金職人に必要な知識や専門技術を学べる！

モノづくりにはチームワークが大切です

建設共同高等職業訓練校では、建築板金以外にも建築、建具の職人を目指す方を対象に週1回、必要な知識や技術を熟練職人が指導しています。モノづくりには、まずチームワークが大切です。仲間を思いやり、助け合う気持ちが安心・安全でいい仕事をするには必要不可欠です。あと“道具は友だち”なので、道具を大切に扱い、手入れをきちんとできない人は職人とは言えません。

モノづくりに携わるならば、せっかくなのでみんなに一番を目指してほしいと思っています。そうすれば、自然と次々といろいろなことに興味がわき、どんどん新しいことにチャレンジしたくなるはずです。

建設共同高等職業訓練校
校長 **中村 清光**

モノづくりの魅力は、完成品が形として残ることです。それだけに責任も大きく、いくつになってもこれで満足というものはありません。モノづくりに興味のある方はぜひこの世界に飛び込んで来てください

石川県認定訓練校との連携もバッチリ！

【2年間の訓練内容】

学科 板金加工法一般／建築板金加工法／建築構造概論／溶接／製図

実技 製図（展開法）／基本実技／応用

【修了生の主な特典】

●訓練校修了（技能照査合格）後、「技能士補」となり、2級検定（建築板金）の学科試験が免除になります

●2級技能士（建築板金）取得後2年で1級技能検定が受験できます

建設共同
高等職業訓練校

〒920-0022
金沢市北安江4-15-15
TEL & FAX.076-265-5543